



神戸大学附属図書館 主催
平成24年度 資料展

開学のころ



~ 110 Years Ago ~

上 :『Souvenir album』より「Reading Room, Library (圖書閲覧室)」

左下:神戸高等商業学校図書館蔵書印

右下:最初の図書受入簿

2012年10月19日(金)~12月18日(火)

【入場無料】

会場:神戸大学附属図書館 社会科学系図書館【2階展示コーナー】

展示時間:月~金曜日/8:45~21:30 土~日曜日/10:00~19:00
(ただし祝日・第1日曜日を除く)

交通:阪神「御影」・JR「六甲道」・阪急「六甲」の各駅から
市バス36系統「神大正門前」下車 キャンパス内を北へ徒歩約5分

神戸大学附属図書館 社会科学系図書館
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1

お問合せ先:情報リテラシー係 TEL:078-803-5313

E-Mail: literacy@lib.kobe-u.ac.jp



開学のころ ~110 Years Ago~

現在、神戸大学は教育・研究とならぶ第三の使命として地域・社会との連携協力にも力を注いでいます。附属図書館でも、所蔵する貴重な資料を地域の皆様にもご覧いただきたいと考え、平成16年度から展示会活動をはじめ、本年度で9年目となりました。

本年は、神戸大学創立110周年を記念して、「開学のころ~110 Years Ago~」と題し、本学創立起点の神戸高等商業学校(神戸高商)が設置された1902(明治35)年にスポットを当てます。当館所蔵資料の展示を通じて、神戸高商関係のみならず、当時の神戸の有様や、日本の世相、文学など、その時代の様々な側面を浮かび上がらせることにより、ご観覧の皆様にはささやかなタイム・トラベルを味わっていただければと存じます。

多数のご来場をお待ちしております。

展示内容

1. 高商の風景

1902年3月に設立された神戸高等商業学校は、神戸大学の創立起点として位置づけられています。水島鍬也が初代校長を務めた神戸高商では、熱心な商業教育が行われ、学生たちは図書館で勉学に励みました。多くの人々が集った学校と図書館。その当時の様子を、写真や資料を交えてご紹介します。



【Souvenir album】より「神戸高等商業学校前景」



【兵庫縣案内記】より「兵庫縣廳」

湊川の付替工事や兵庫県庁舎の建設、禿山だった六甲山の植林など、当時の神戸で起こったできごとをご紹介します。また、1902年に神戸を訪れた著名人の足跡を語る旅館の記録など、さまざまな資料からその頃の神戸をふりかえります。

2. 神戸そのころ

3. 文学と出版

明治中期は西欧の精神を取り入れてきた流れを受け、日本文学が分化・発展した時期でした。この時代に名を馳せた多くの文学者の中から、結核の末1902年に没した正岡子規、『金色夜叉』で一世を風靡した尾崎紅葉、紅葉の友であり劇作家兼翻訳家の長田秋濤に注目し、また検閲などの出版事情についてもご紹介します。



【鐘樓守：ノートルダム・ド・バリ】より「(紅葉と秋濤)」



【太陽】表紙

1月の日英同盟締結で幕を明けた1902年。時代は日露戦争へと向かうなか、近代産業の進展もたらした劣悪な労働事情、国家思想統一を背景にした教科書の国定化やそのきっかけとなった教科書疑獄事件、戦費調達为目的でもあった煙草専売制へ向けてのうごきなど、当時の社会世相を語る資料をとりあげます。

4. 社会と世相